

12月号 ごあいさつ

2050年カーボンニュートラル実現に向けたGXの推進 木材 住宅業界が果たすべき使命とは

株式会社 山西 あすなる会顧問
代表取締役社長 西垣 洋一

長年、世界規模の課題として挙げられている地球温暖化。二酸化炭素・メタンといった温室効果ガスの排出は、地球温暖化を加速させ、気候変動や自然災害、健康被害など様々な面で我々に影響を及ぼしています。IPCC 第6次評価報告書によると、今後も温室効果ガスの濃度が上がっていくと、今世紀末までに地球の温度は3.3~5.7°C上昇すると見解を示し、エジプトで開催したCOP27において温暖化対策の強化議論を実施、2030年までの対策を強化する作業プログラムの採択を目指すなど環境問題に対する危機は深刻さを増しています。又、カナダ西部内陸産 SPF2×4製材大手キャンフォアのレポートによれば、アラスカ北極圏のツンドラ地帯で本来生育しているべきものではないホワイトスプルースが確認され、驚異的なスピードで北上へ拡大していることを観測。この「北極圏の緑化」と呼ばれる現象は気候変動が加速していることの表れであり、世界に深刻な影響を及ぼす可能性があることを示唆しています（右図参照）。

このような状況下、各国が地球温暖化への危機感を示している中、日本も経済社会システム全体の変革を目指して、2050年カーボンニュートラル実現に向けたGX（グリーントランスフォーメーション）の推進を図っています。GXとは、地球温暖化など環境問題を引き起こす温室効果ガスの排出をなくすため、化石燃料からクリーンエネルギーや脱炭素ガスに転換して、経済社会システム全体の変革を目指す取り組みのことです。2022年6月には岸田内閣が閣議決定した「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」では、このGXを「重点投資分野」の一つに位置付けています。つまり、政府はカーボンニュートラル・地球温暖化対策計画を実現するためには、企業およびステークホルダーの協力が必要不可欠であると考え、企業のビジネスモデルや戦略を変革し、環境を保全して経済の回転を良くする、経済を活性化して環境を改善していくという、経済と環境の好循環を目指すことを方針として掲げています。

< GXの目指す循環構造 >



木材 住宅業界においてもその役割は大きく、建築物の省エネ性能の一層の向上、炭素を長期固定化する木材利用促進、既存建築ストックの長寿命化など脱炭素社会、カーボンニュートラル実現の一翼を担っています。私達はそのことを自覚し、誇りと責任を持って未来に向け、川上から川下の全ての業界団体の協力体制を構築し、循環型社会の形成を推し進めていかなければなりません。そしてそれが将来の世代へとつなぐ我々業界の果たすべき使命だといえます。

アラスカ北上を続ける木々、木が増えても喜べない現象



北極圏のツンドラ地帯にホワイトスプルースが驚異的なスピードで拡大しており、この地域だけでなく世界に深刻な影響を及ぼす可能性がある。

2019年の夏、ローマン・ダイアル氏と友人のブラッド・マイケルジョン氏は、アラスカ北西海岸のコツェーブからエンジン1基搭載のブッシュプレーンをチャーターした。彼らの目的地であるツンドラの奥地までは、着陸地点からさらに5日間のハイキングが必要だった。ダイアル氏は、衛星画像のツンドラの奥深くに見える特異な影に気づいていた。

ハイキング4日目、2人がカリブーの通った獣道を歩いていると、マイケルジョン氏が「ストップ！」と叫んだ。ダイアル氏は、友人が熊を見たのだと思ったのだが、マイケルジョン氏が見たものは、実はもっと厄介なものだった。それはホワイトスプルースの立木だった。北米で飾られるものと比べれば小さ目であるが、まるでクリスマスツリーのように枝ぶりがよく、胸の高さまでである。地球的観点から見ると良いニュースではない。何故なら、ホワイトスプルースは、その場所に生育しているべきものではないからだ。激しい風と寒さが厳しいアラスカツンドラ地帯に生える植物といえば低木や草、そして草に似たスゲだ。たとえ種子が北に飛んでいけたとしても、樹木が根を張るには生育可能期間が短すぎるからだ。

ダイアル氏が訝った衛星画像の影は、実際には場違いな木々で「北極圏の緑化」と呼ばれる現象の一部であることがこの旅で確認された。北極の温暖化が他の地域の4倍以上の速さで進んでいることから、極北の植物にとって生態系の障壁が取り除かれ、より多くの植物が極地を目指して移動している。「翌日、東に移動すると、さらに多くのホワイトスプルースが見つかり、生育中のホワイトスプルースの草原、北極圏のサバンナを発見するまでに至りました」と、アラスカ・パシフィック大学の生態学者であるダイアル氏は振り返る。

北極圏の緑化は、北極圏だけでなく世界全体にとって、ダッシュボードの気候変動のダメージを示す警告灯がけたたましく鳴り響いていることを意味する。低木の増殖は小さく比較的早く成長するが、長寿命のホワイトスプルースは全く以て別物である。「樹木が成長しているのを見ると、気候が本当に変化しているのが分かります」とダイアル氏。「5年や10年ではなく30年に渡る気候の変化により、新しい場所に新しい木々が定着したのです」。

『キャンフォア・レポート 2022年10月 VOLUME197』より記事一部抜粋